

Title	編集後記 (泌尿器科紀要 第6巻第10号)
Author(s)	
Citation	泌尿器科紀要 (1960), 6(10): 954-954
Issue Date	1960-10
URL	http://hdl.handle.net/2433/112019
Right	
Type	Others
Textversion	publisher

編集後記

今年の夏の暑さは格別であつたが、秋の声を聞くと共に学会開催の報がしきりに到来する。9月17日に第9回泌尿器科関西地方会が奈良医大にて開かれた。新築の基礎校舎の講堂は手頃な会場で、約100名の会員が20の演説を聴いた。この会は専門家ばかりの集りで、会員数は頃合いで、演題内容は臨牀的に興味深いものばかり、出題数も適当で、種々の雑務がなく、費用もあまりかからぬ等、よい事ばかりである。本会が益々隆盛になり、心から喜ばしい。



10月1, 2日に第12回西日本皮膚科 泌尿器科地方会が岡山大学大村会長の下に行われた。会場は天満屋デパートの講堂で、広さ、設備等は申し分なく、出席者は約300名。皮泌科合同であるから運営には新工夫が加えられている。第1日は土曜の午後から始まつたが、これは泌科の特別講演2題と皮科の1題及びそれに関連する演題に当てられた。第2日の午前は泌科の一般演説、午後は皮科のそれに当てられた。このように1日半の中に両科がまとめられたのは新機軸である。特別講演の一は熊大池上講師の「尿路疾患と高血圧症」で、近年大いに注目されるテーマで詳しい成績が発表せられた。他の一は鳥大後藤助教授の「上部尿路結核症の病理学的知見」である。腎結核発症に血管炎が重大な意義を有する事と、化学療法の影響に就て述べられた。一般演説は20題が口演せられた。いずれも聞きごたえのあるものであつたが、尿路結核化学療法、特発性腎出血、尿路細菌薬剤耐性、腸膀胱吻合術或は再生膀胱等には未だ多くの問題があると考えられた。

大食堂に於ける懇親会には根岸先生が元氣なお姿で8年前の当地における総会の事を感慨深く話され、地元の人達の歓迎の言葉があつた。宴席はパーティ式と定食式の中間をゆくもので、なかなかよいやり方である。美人の余興やサービスでメートルが上がり、某医師の奇術は堂に入つたもの。特に見事なのは無形文化財「白石踊」であつた。そのあとで荒手茶寮でくつろいだ。すべてが総会におとらぬ盛大さであり、当事者の御苦勞をお察しすると共に、厚く感謝する次第である(昭和35年10月)

購読要項

1. 発行は毎月(年12回)とする。年間購読者を以て会員とする。
2. 会員は年間料金 1,000円を前納する。1冊料金 100円、払込みは振替口座番号京都4772番 泌尿器科紀要編集部、或は第一銀行百万遍支店。
3. 入会申込みは氏名(フリガナ)、住所(雑誌郵送先)、勤務先、職地位、自宅開業の別、送金方法を御記入の上編集部宛。

投稿内規

1. 原稿の種類は綜説、原著、臨牀報告、その他。寄稿者は年間購読者に限る。
2. 原稿の長さは制限しないが簡潔にする。
3. 原稿は横書き、当用漢字、平仮名、新仮名使いを用い、片仮名には括弧を要しない。400字詰原稿用紙を用いること。附表、附図はなるべく欧文にすること。
4. 文献の書式は次の如くする。著者名：誌名、巻数：頁数、年次。
例。中野：泌尿紀要、1:110, 昭30. Lazarus, J. A.: J. Urol., 45:527, 1941.
5. 300語以内の欧文抄録を記し、之には欧文の標題、所属機関名、ローマ字著者名を附け、なるべくタイプライターを用いること。希望の場合は当編集部にて翻訳します。抄録用の原稿を送ること。翻訳の実費は申受く。
6. 掲載料は4頁迄毎頁500円、それ以上の頁、アート頁、図表、写真は実費を申受ける。別冊20部を無料贈呈、それ以上は実費を徴収する。この場合には予め希望部数を申込むこと。特別掲載も考慮する。
7. 校正は初校のみ著者校正とし、再校以降は編集者が行う。
8. 原稿送り先は京都市左京区聖護院 京都大学病院 泌尿器科紀要編集部。